

農業振興公社だより

第3回通常総会・全議案満場一致で承認される



派遣をすることになり、また一つ角田農業の情報発信に繋げることになりました。

一方で転作の取り組みは、従来のブロックローテーション方式から優良転作団地の創設の話が出てきている。先にも、米と同じ収入を確保するためには、優良団地を造るべきではないかと提唱しています。土地改良区にもお願いをして二段汲み、三段汲みをしている所などは優先して転作を実施できるようにお願したいという方針を先にも打ち出しました。嫌われるのを覚悟してこの形を進め、転作物が安定して生産・収穫できる場所に設定するべきではないかと思っています。人材育成面では、角田で農業をしたいという新規就農者が一名増えました。また農地の集積も約四割に迫る状況で、計画の六三%も夢ではない。今年の集積の状況を考えると、約五割は担い手農家の方々に集積が促進される計算になります。健全な担い手農家の育成に、農業振興公社の役割は今後一層大きくなる」とあいさつしました。

その後、角田市議会牛澤潔副議長、大河南産業振興事務所高橋所長から祝辞を頂いたほか、角田市議会齋藤産業経済常任委員長、大河南地域農業改良普及センター所長に臨席いただきました。

議長には、東根の渡辺俊博氏を選出し、議事に入りました。平成十三年度事業報告、収支計算書等の財務諸表の承認、平成十四年度事業計画案、収支予算案が議事として提出さ

◆発行◆
社団法人
角田市農業振興公社
TEL63-2328
FAX61-1521

れ、原案どおり可決いたしました。

本年度の事業重点項目として『創意工夫を生かした「自立した農業経営体」による角田農業の確立』、『地域循環型農業の推進』、『あぶくま農学校による農業人材の育成』、『地産地消の推進』、『食農学習の推進と都市消費者との交流』、『自主プロジェクトの取り組みの支援』などの六項目を掲げました。これら重点項目の中身として、経営能力の向上に対する推進と支援のため青色申告農家の育成とパソコン簿記の推進、農地の利用集積と効率的な利用の促進のため農地管理システムの構築と充実、あらゆる生産調整体制への柔軟な取組のための作物の推進や助成措置の検討、食農学習の推進のための百姓先生の講師派遣、農協青年部との連携強化などを掲げています。

総会終了後、宮城大学大学院の大家一貴教授を講師に迎えて『新時代を生き抜く農業経営もつかる農業経営の展開について』と題して講演が行われました(詳しい内容は2ページをご覧ください)。

新たに 農業戦略会議委員を委嘱

会員から公募していただきました農業戦略会議委員が選考され、新たに農業経営体から十一名、関係団体から十一名を委嘱しました。

任期は平成十四年度から十五年度の二か年。今後、定期的に農業戦略会議を開催して、角田市農業振興公社の事業・運営と、角田の農業振興策の行政や関係機関への提言、角田農業の情報発信とトップブランドづくり等について、協議・検討して参ります。

今年度から、宮城県からの支援も強化され、大河南地域農業改良普及センターがその任にあたることとなりました。

職員の体制が変わりました

4月から角田市農業振興公社の職員体制が変わりました。よろしくお願ひします。

- | | |
|--|----------------|
| 農業経営体として戦略会議委員に委嘱されたみなさんを(紹介します(順不同))。 | 岸浪俊一さん(角田・花ぎ) |
| 鎌田源秋さん(角田・農産加工) | 松崎みや子さん(角田・果樹) |
| 星智宏さん(枝野・園芸) | 伊藤稔さん(藤尾・園芸) |
| 阿部和郎さん(藤尾・果樹) | 渡辺俊博さん(東根・肉用牛) |
| 太田正好さん(桜・養豚) | 面川明さん(北郷・米) |
| 堀米一さん(西根・肉用牛) | 三浦徹さん(西根・園芸) |

- | | |
|--------------|-------|
| 事務局長 | 菅野純一 |
| 次長 | 荒井清次 |
| 主査 | 小森洋司 |
| 主事 | 森下隆博 |
| 主事 | 日倉まゆみ |
| 主事 | 穴倉まゆみ |
| 農地流動化対策総合調整員 | 手塚照雄 |
| 経営指導マネージャー | 目黒乙彦 |

会員の加入状況
(平成14年7月1日現在)

個人会員	138名
組織会員	13組織
団体会員	7団体
特別会員	96名

(東京都目黒区役所職員、目黒区内小学校関係者等)